

7月13日

正しい知識でヒグマ事故の防止 ヒグマ対策講演会を開催



町主催によるヒグマ対策講演会が7月13日、町公民館で開催されました。

講師を務めた(公財)知床財団・事業部野生動物／公園戦略参事の金川晃大さんは、ヒグマの生態や習性について解説した上で、電気柵や強固な新型ごみステーションの設置など、同財団がある斜里町で実際に行われている取り組みを紹介しました。参加した約80人は、ヒグマに遭遇しないための対策や遭遇時の対応などの話に、真剣に耳を傾けていました。

カメラスケッチ

広報マンが行く!!

このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐにかけつけます。お気軽にご連絡ください。

まちづくり政策課政策調整係 ☎482-2913 (直通)

7月17日

河川愛護・自然保護を推進 釧路川にヤマベの稚魚放流



釧路・リバー・プロテクション・21の会(辻谷智之会長)によるヤマベの稚魚の放流が7月17日、釧路川ふれあい広場で行われました。

同事業は平成21年から魚類資源回復のために実施されており、今年は釧路開発建設部釧路河川事務所(川邊和人所長)や町、認定こども園ましゅう(高野龍彦園長)の園児25人など、多くの参加者が集いました。園児たちの手により放流されたヤマベの稚魚1,500匹は、釧路川を元気に泳いでいきました。

7月23日

命を守るための行動を実践 弟子屈小学校で防犯教室を開催



弟子屈小学校(佐藤義行校長)が7月23日、弟子屈警察署(斎藤淳一署長)協力のもと防犯教室を開催しました。

2年生と4年生が参加した今回の教室は、不審者に扮した同署員の特徴を大人に正しく伝える演習形式で実施。児童らは「白いシャツと黒いズボン姿だった」などと、不審者について事細かに報告しました。同署地域交通課の中川原悠紀警部補は「自分や大切な人の命を守るよう、今日学んだことを覚えておいてほしい」と話しました。

7月15日

触れ合いを通して学ぶ 弟子屈中学校が保育実習を実施



弟子屈中学校(小林一博校長)の3年生30人が7月15日、認定こども園ましゅう(高野龍彦園長)で保育実習を行いました。

この実習は家庭科の授業の一環として、子どもの発達・成長を学ぶため毎年行っています。生徒たちは園のクラスごとに分かれ、一緒に絵の具でお絵描きをしたり、じゃんけん列車で遊んだり、園児の年齢に応じた触れ合いを体験。明るく元気いっぱいな園児との交流に、生徒たちにも笑顔があふれていました。

7月17日

町の魅力を再発見 高校生が和琴半島でサップ体験



町教育委員会は7月17日、青少年健全育成事業として、町内高校生を対象とした「サップ体験」を和琴半島で実施しました。

今回は、和琴半島先端に位置し噴煙とともに温泉が湧き出す天然の景勝地、「オヤコツ地獄」までのサップを体験。参加した5人の高校生たちは、屈斜路湖サップクラブでインストラクターを務める川上志保さんの指導のもと、天候に恵まれたなか豊かな自然と触れ合い、素敵な夏の思い出を作りました。

町公式YouTubeチャンネル

北海道映像コンテストで 最優秀賞受賞



動画制作者の高橋代表社員(左)と仁多獅子舞保存会の狩野会長(右)



仁多獅子舞の復活物語【前編】



仁多獅子舞の復活物語【後編】



表彰式の様子

(一社)北海道映像関連事業協会主催の「北海道映像コンテスト2026」における地域振興コンテンツ部門で、町公式YouTubeの動画「(ムーブ弟子屈)仁多獅子舞の復活物語」が最優秀賞を受賞し、その表彰式が7月15日に札幌市で行われました。

今回コンテストに応募した作品は、平成元年に最後に継承が途絶えていた「仁多獅子舞」が、令和7年弟子屈神社例大祭での獅子舞奉納により復活するまでを映像に収めたものです。

審査員からは「地域の伝統芸能の記録は数々あれど、その復元や再生をこまめに丁寧に見てきた作品は少ない。現代を生きたる我々の時代と意味を地域の歴史に位置付ける、アクティブな試みとなっている。伝統文化復活を細かに追った内容だけに、同様の問題や課題に對峙する他の地域の人々にとっても、事例の参考資料としての効果も大いに期待できる。」などの評価をいただきました。

動画を制作した(同)BASE CAMP TESHIKAGAの高橋志学代表社員は「皆さんの熱意が届いたことがうれし」、「仁多獅子舞保存会の狩野秀喜会長は「一生懸命動画を作ってくれたおかげ」と、喜びを口にしました。

今回受賞した作品は、全国大会「全映協グランプリ2026」にノミネートされています。本作品や表彰式の様子は、町公式YouTubeチャンネルから、ぜひご覧ください。

町の話



CloseUp Topics

農業経営基盤強化に関する視察

日置市議会 産業建設常任委員会が来町



永山在兼園影の碑に献花



職員一同で日置市議会の皆さんを歓迎



農業経営基盤強化の研修を実施

8月4日から6日にかけて、日置市議会産業建設常任委員会の行政視察があり、福元悟委員長をはじめ議員など7人が5日に来町されました。当町と日置市との縁は、阿寒横断道路の建設に尽力した永山在兼氏の出身地が鹿児島県東市来町(現・日置市)によるもので、昭和58年の姉妹都市盟約締結から40年以上のお付き合いです。姉妹都市のきっかけにもなっている奥春別地区の「永山在兼園影の碑」にも献花していただきました。

町公民館講堂では歓迎セレモニーも行われ、徳永町長ら職員一同で「おかえりなさい」とお出迎えしました。御一行の中には複数回訪れている方もおり、懐かしさを感じていたようでした。

今回の行政視察は白糠町や釧路市その他、当町では農業経営基盤強化基本構想に基づく各種事業について研修をされました。菅野雄一農林課長による説明を熱心に聞いていた皆さんは、北海道の農業規模に大変驚かされていました。

昨年度は上副市長をはじめとする物産交流団と和牛生産交流視察団の14人が来町。10年ぶりの町民ツアーも開催しました。今月12日(土)には日置市で行われる物産展への出展も予定しており、今後も交流を続けていきます。

7月28日

寒暖差が育む甘さ 摩周メロン豊稔祭を開催

吉備津副町長によるメロンカット



摩周メロン生産組合（室内英和組合長）の豊稔祭が7月28日、町農産物集出荷センターで開催されました。

生産者からは、「今年は4、5月の低温や6月の長雨の影響でハウスの湿度管理に苦労したが、その後は好天に恵まれ、弟子屈ならではの朝晩の寒暖差により糖度が高まったフレッシュな味わいのメロンに仕上がった」と報告がありました。6戸の生産者が丹精を込めて育てたメロンは、赤肉・青肉合わせて約2万玉の出荷を予定しています。

7月27日

思い描くいじめのない未来へ 町未来こども会議を開催

学校での取り組みを発表



いじめのない学校づくりに向けて、町内小・中学校の代表者が交流を図る「町未来こども会議」が7月27日、町公民館で開催されました。

児童生徒らは、スタンブラーやあいさつ運動、いじめ予防教室など、いじめ撲滅に向けた各校の取り組み内容を発表。その後のグループ協議では「未来の弟子屈・未来の弟子屈人」をテーマに、互いを尊重し協力し合える地域の実現に向けて一人一人ができることを考え、活発に意見を交わし合いました。

7月24日・25日

川湯温泉街で夏の初企画 「川湯温泉湯けむりビアガーデン」開催

飲食を楽しむ来場者たち



川湯温泉街で初めてのビアガーデンが7月24日・25日、川湯料飲店組合（瀬原栄一組合長）主催で開催されました。

川湯温泉街再整備により更地となった廃屋跡地を会場として活用したこのイベントは、2日間合わせて約500人の来場者で大いに賑わいました。会場では、イベント限定メニューの提供やキッチンカーの出店に加え、こども緑日やこども花火も開催。大人から子どもまで、たくさんの笑顔がみられる夏の素敵な2日間となりました。

カメラスケッチ

広報マンが行く!!

このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐにつけつきます。お気軽にご連絡ください。

まちづくり政策課政策調整係 ☎482-2913 (直通)

7月31日

仲間と利用するへ 摩周湖農協より衣料品寄贈

寄贈された数々の衣料品



摩周湖農業協同組合（川口寛代表理事組合長）が7月31日、養護老人ホーム仲間と利用する（丹羽好文園長）に100点を超える衣料品を寄贈しました。

今回の寄贈は、昨年11月まで店舗で販売していたブラウスやジーンズ、靴などといった衣料品の在庫を同園の利用者に使用してほしい、という思いから実現されました。丹羽園長は「利用者にとって大変ありがたいもの。いただいたものは今後の生活の中で活用させていただく。」と感謝を述べました。

7月30日

交通事故がなくなりますように 川湯保育園児が交通安全の街頭啓発

手作りのチラシで交通安全の呼びかけ



川湯保育園（小林史和園長）の3歳～5歳児が7月30日、大鵬相模記念館横の駐車場で交通安全を呼びかける街頭啓発活動を行いました。

碓氷山方面から川湯市街地へ向かってくる車に旗を振って注意喚起したり、手作りのチラシを渡して「交通事故に気を付けてください」とドライバーに呼びかけたりしました。緊張した面持ちの園児たちでしたが、ドライバーからの「ありがとう」の言葉に、笑顔が浮かべる様子も見られました。

7月25日

4郵便局連携の環境美化活動 街をきれいに！除草・ごみ拾い実施

参加した郵便局の皆さん



町内4郵便局（弟子屈・川湯・美留和・屈斜路）が7月25日、社員の環境保護、地域・社会貢献意識を高めるために、複合型地域観光交流施設建設地周辺の除草とごみ拾いを実施しました。

この取り組みは、北海道東トトレイル利用者などが気持ちよく歩くことのできる環境づくりを目的とし、総勢22人が参加。4郵便局は、同トトレイルの中継地点として利用者への案内や情報提供を行い、地域の魅力向上と観光振興への貢献を推進します。

7月25日

黄色い花を咲かす特定外来生物 「オオハングンソウ」防除活動

防除活動の様子



在来植物の成長を阻害するとされている「オオハングンソウ」の防除活動が7月25日、JR川湯温泉駅前の国道沿線で実施されました。

この活動は、NPO法人てしかがトレイルクラブ（土屋重敏代表理事）とボランティアの方々、役場職員などで毎年行っているものです。継続した取り組みにより、一部地域では生育本数が大幅に減少し、在来植物の生態系を守っています。この日は、快晴の中、約50人で1,450キログラムものオオハングンソウを引き抜きました。

8月7日

みんなで夏の催しを満喫 こども園で夏祭りを開催

祭りを楽しく見守る園児たち



認定こども園ましろ（高野園長）は8月7日、保護者の会（室内美紗貴会長）主催、町商工会青年部（西崎勉部長）協賛の夏祭りを、同園敷地内で開催しました。

会場には、かき氷やくじ引き、ヨーヨー釣りなど、さまざまなお店が並んだほか、大型のバレーネットも設置され、元気に遊びまわる園児たちの姿が見られました。

祭りの最後に打ち上げられた70発もの花火には大歓声が沸き起こり、園児たちにとって素敵な夏の思い出となりました。

7月31日～8月2日

地域活性化起業家が企画 3Dプリンターでの制作体験イベント

作品が出来上がる様子に興味が



町図書館（川井田東吾館長）主催によるイベント「3Dプリンターを見てみよう！第2弾」が、7月31日から3日間、町公民館で開催されました。

昨年11月開催の第1弾に続き、地域活性化起業家として町図書館に着任している丸善雄松堂様（矢野正也代表取締役）の曾根啓子さんがイベントを企画。小・中学生29人の他、見学者も含め52人が参加し、ネームホルダー作りやオリジナルのマスコット作りを楽しみました。

7月26日

町公民館で夏祭りを 「りもらPLUS+夏祭り」開催

カラリスサウンドを使った制作体験



7月26日、町公民館で「りもらPLUS+夏祭り」が、同実行委員会（大淵真由美実行委員長）主催で開催されました。

リラクゼーション体験やハンドメイド作品の販売、弟子屈高校（伊東文人校長）の生徒たちによるクッキーの販売などが行われたほか、会場ではバトンやダンスも披露されました。イベントは昨年度よりもバワーアップし、キッチンカーやフリーマーケットを含め約40店舗が出店。天候にも恵まれ、200人を超える来場客で賑わいました。

7月26日

木に触れ親子でものづくり 夏休み親子トンカチ広場を開催

完成した力作と記念撮影



7月26日、町主催の「夏休み親子トンカチ広場」が町林業多目的センターで開催されました。

このイベントは、親子で木と触れ合い、木への親しみを深める「木育」の一環として毎年行われているもので、今年は親子4組の合計8人が参加。子どもたちは、ノコギリや金づちの使い方を家族に教えてもらいながら、熱心に作業に取り組みました。完成した作品はどれも力作ぞろいであり、夏休みの楽しい思い出の一つとなりました。